

『第2章 府営水道としての取組方策』 関連資料

資2-1 受水市町の状況

- 受水市町別の受水割合の推移
- 受水市町ヒアリング結果（H23.11）

資2-2 一日最大給水量（府営水）の推計 ～負荷率の考え方～

資2-3 府営水道の過去の事故事例

資2-4 更新基準年数の設定

資2-5 送水管路 地震被害想定

資2-6 広域水運用 ～水運用の例～

資2-7 府営水道料金の状況

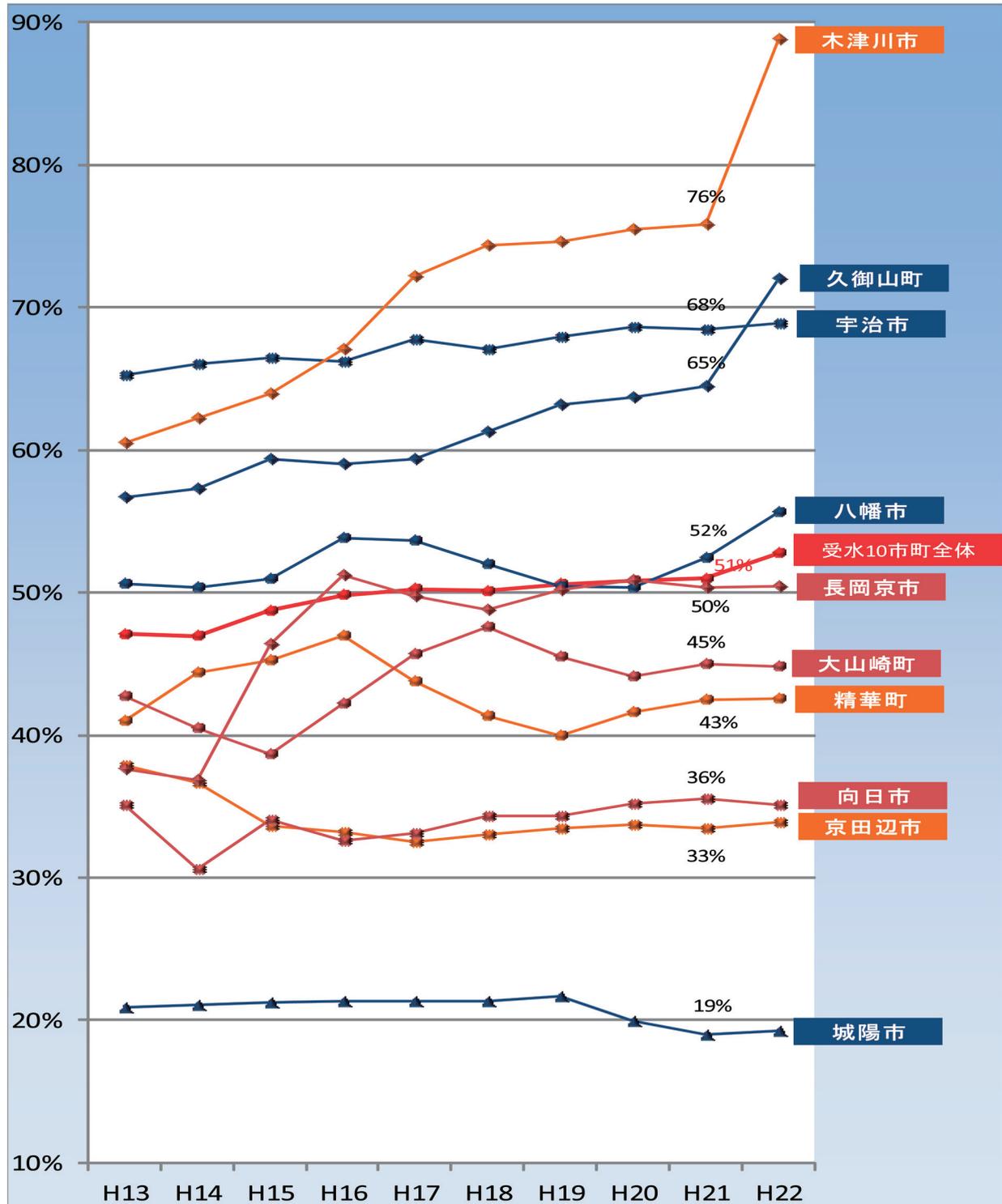
資2-8 基本水量に対する実供給水量の割合

資2-9 広域化等研究会における検討結果

- 広域化等に係る受水市町へのアンケート調査（H23.12.1実施）結果
～第2回京都府営水土ビジョン検討会資料（H24.1.31）～
- 受水市町ヒアリング内容（H24.2.13・17実施）及び各水系内協議結果
～第3回京都府営水道ビジョン検討会資料（H24.5.28）～

資 2-1 受 水 市 町 の 状 況

受水市町別の受水割合の推移



資料編
第2章 関連資料

※ 八幡市・久御山町においては、平成22年度に、木津川市においては、平成22年度から施設改修工事を行っており、一時的に府営水を増量

受水市町ヒアリング結果 (H23. 11)

宇治市

(単位: m³/日)

浄水場				水源						配水能力 ※2		
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要			
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1		一日平均汲上量(H22実績)	状況
宇治浄水場	S52	20,700	薬品沈澱急速ろ過消毒	out	未	伏流水井	伏流水	S52	5,000	3,621	取水量の季節変動が大きい	20,700
						1号井	深井戸	S56	3,360	2,403	安定状況	
						2号井	深井戸	S52	3,360	2,393	井戸不良により取水能力低下	
						3号井	深井戸	S54	3,360	2,520	安定状況	
						4号井	深井戸	S58	3,360	2,719	安定状況	
						5号井	深井戸	S61	3,360	1,073	取水における濁りが懸念される	
計		20,700				計			21,800	14,729		20,700
西小倉浄水場	H元	5,000	急速ろ過消毒	未	未	1号井	深井戸	H元	5,350	3,151	取水開始時の濁り発生が懸念される状況	5,000
計		5,000				計			5,350	3,151		5,000
神明浄水場	S32	1,100	消毒	未	未	3号井	深井戸	S53	1,155	582	安定状況	1,100
計		1,100				計			1,155	582		1,100
奥広野浄水場	S45	1,000	消毒	未	未	取水井	深井戸	S45	1,050	321	安定状況	1,000
計		1,000				計			1,050	321		1,000
開浄水場	S53	1,500	消毒	未	未	取水井	深井戸	S53	1,575	635	ポンプ性能劣化による取水量減少 揮発性有機物が原水に含有	1,500
計		1,500				計			1,575	635		1,500
合計		29,300				合計			30,930	19,418		29,300

※1 平成22年度末の能力

※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力

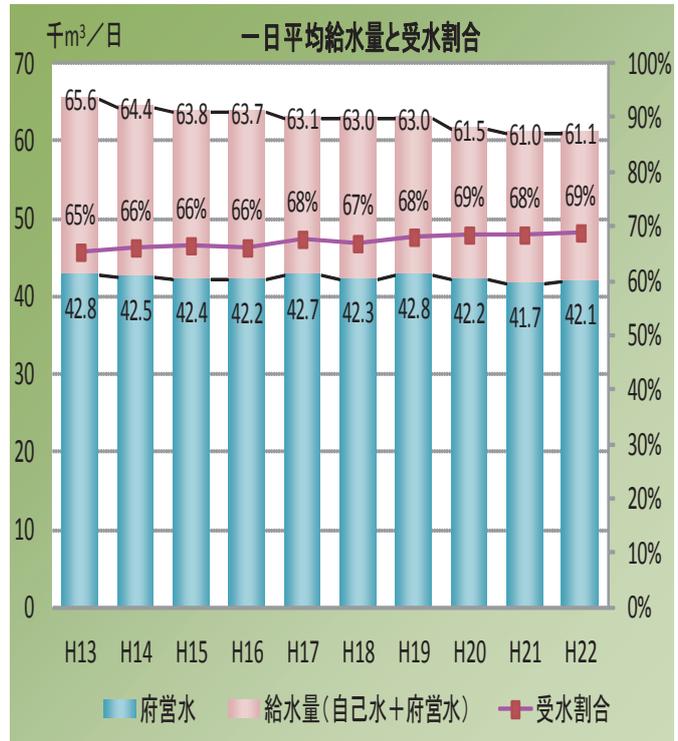
給水区域の状況		①ブレンド区域	②府営水区域	③自己水区域
受水の考え方		現行の考え方		今後の考え方
平均	①ブレンド区域	受水割合を約70%として府営水を受水		浄水場統廃合の検討に併せて、受水割合を80%まで府営水を段階的に増量
	②府営水区域			
	③自己水区域			
最大	①ブレンド区域	需要変動を府営水・自己水で対応		—
	②府営水区域	需要変動を府営水で対応		
	③自己水区域	需要変動を自己水で対応		

(単位：m³/日)

	配水能力 ①	一日平均給水量 (H21実績)		施設 利用率 ②/①
		②	(割合)	
全 体	92,100	60,971		66%
自己水	29,300	19,232	(32%)	66%
府営水	62,800	41,739	(68%)	66%

※ 府営水：府営水道における測定水量

※ 自己水＝全体－府営水



資料編

第2章関連資料

特 記 事 項

災害時のバックアップとして、一日最大給水量の35%に相当する自己水能力を確保

自己水源の約75%を占める宇治浄水場は、施設の機能強化と併せて施設の耐震化を進める

経年劣化の状況が認められる神明・奥広野浄水場を統廃合し、効率的な施設の運用について検討（「宇治市地域水道ビジョン」より）

西小倉浄水場は、耐震性、原水水質の動向、配水のエネルギー効率などを統合的に調査し、今後の運用を検討（「宇治市地域水道ビジョン」より）

城 陽 市

(単位：m³/日)

浄水場						水源						配水能力 ※2
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要			
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1	一日平均汲上量(H22実績)	状況	
第1浄水場	S62	3,900	砂ろ過消毒	H23 診断中	未	1号井	深井戸	H9.3	1,080	944	量的・水質的にも安定	3,900
						2号井	深井戸	H13.11	1,500	962	量的・水質的にも安定	
						3号井	深井戸	H16.6	2,217	1,047	量的・水質的にも安定	
						4号井	深井戸	S53.6			設備の老朽化により休止	
計		3,900				計		4,797	2,953		3,900	
第2浄水場	H2	6,500	砂ろ過消毒	H23 診断中	未	1号井	深井戸	S50.6			設備の老朽化により休止	4,800
						2号井	深井戸	S54	1,008	902	量的・水質的にも安定	
						3号井	深井戸	S50.8		568	設備の老朽化により休止	
						4号井	深井戸	S61.4			設備の老朽化により休止	
						5号井	深井戸	H13.8	1,267	1,183	量的・水質的にも安定	
						城陽団地井	深井戸	H14.7	1,400	1,384	量的・水質的にも安定	
						予備井	深井戸	H8.3	1,176	1,044	量的・水質的にも安定	
計		6,500				計		4,851	5,081		4,800	
第3浄水場	H4	19,800	薬品沈澱 急速ろ過 自然ろ過 消毒	out	未	1号井	深井戸	H2.3	2,640	2,127	量的・水質的にも安定	19,800
						2号井	深井戸	H15.5	3,630	1,984	量的・水質的にも安定	
						3号井	深井戸	S60.5			設備の老朽化により休止	
						4号井	深井戸	S63.7	2,448	1,904	量的・水質的にも安定	
						5号井	深井戸	H5.10	4,368	1,108	量的・水質的にも安定	
						6号井	深井戸	H7.3	4,600	1,261	量的・水質的にも安定	
						7号井	深井戸	H14.3	3,000	2,059	量的・水質的にも安定	
計		19,800				計		20,686	10,443		19,800	
合計		30,200				合計		30,334	18,477		28,500	

※1 平成22年度末の能力

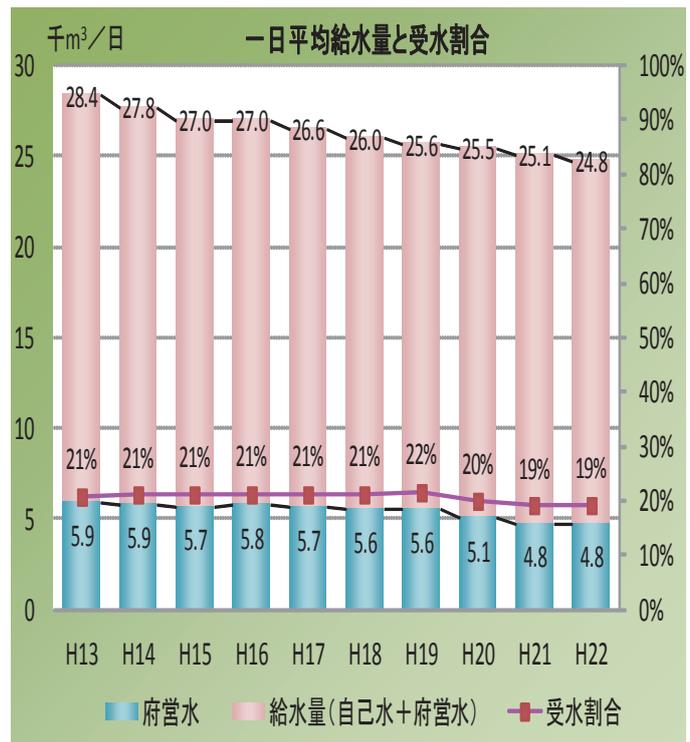
※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力

給水区域の状況		①ブレンド区域	②府営水区域	③自己水区域
受水の考え方		現行の考え方		今後の考え方
平均	①ブレンド区域	昭和40年代の人口急増時における府への受水要望の経過等から、現在の自己水開発に依存した水源形態に決定したもの 受水割合を約20%として府営水を受水 現在、井戸の適正運転の下限ぎりぎりでの運用を行っているところ		井戸を最下限運転し(19,200m ³ /日)、今後の水需要の減少分は府営水の受水量を減量して対応 水需要が減少する中で、府営水の増量は考えられない 井戸の運転停止してまで、府営水を増量することは、減価償却費や元利償還金を抱えたまま移行することとなり、市民や議会の理解を得られない
最大	①ブレンド区域	需要変動を府営水で対応		同左 → 井戸を最下限運転し(19,200m ³ /日)、需要変動を府営水で対応

資料編 第2章 関連資料

(単位：m³/日)

	配水能力 ①	一日平均給水量 (H21実績)		施設 利用率 ②/①
		②	(割合)	
全 体	42,600	25,135		59%
自己水	28,500	20,354	(81%)	71%
府営水	14,100	4,781	(19%)	34%



- ※ 府営水：府営水道における測定水量
- ※ 自己水＝全体－府営水

資料編
第2章 関連資料

特 記 事 項
耐震診断結果に基づき、平成24年度に施設及び管路の整備計画を策定する予定
水需要が減少する状況下で、現有施設の適正稼働域の中での事業経営をせざるを得ない 現在、取水井戸の適正運転の下限ぎりぎりでの運用を行っているところであり、自己水能力のダウンサイジングも限界であり、総配水量の減少を全て府営水の受水に振り替えているものではない
水道施設が効率的な配置となるように、府営水道の受水点及び配水区域の見直しを検討し、必要に応じて、施設能力の削減を合わせて行う なお、ランニングコストだけでなく、イニシャルコストを含めたトータルバランスによる比較検討を行う（「城陽市水道ビジョン」より）
現行の農業振興地域からの用途変更に伴う新市街地整備予定地区における水需要の増加への対応

八 幡 市

(単位：m³/日)

浄水場					水源					配水能力 ※2		
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要			
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1		一日平均汲上量(H22実績)	状況
美濃山浄水場	S56	16,000	薬品沈澱急速ろ過消毒	一部out	実施中(H24迄)	1号取水井	深井戸	S55			揚水量減少のため休止	12,960
						2号取水井	深井戸	S55	1,440	587	老朽化のため年々減少傾向	
						3号取水井	深井戸	S57	1,608	1,304	老朽化のため年々減少傾向	
						4号取水井	深井戸	S56	1,656	938	老朽化のため年々減少傾向	
						5号取水井	深井戸	S58	1,296	1,148	老朽化のため年々減少傾向	
						6号取水井	深井戸	S62	2,016	1,540	老朽化のため年々減少傾向	
						7号取水井	深井戸	S63	2,064	1,649	量的にも水質的にも安定	
						8号取水井	深井戸	H15	2,880	2,266	量的にも水質的にも安定	
計		16,000				計		12,960	9,432		12,960	
合計		16,000				合計		12,960	9,432		12,960	

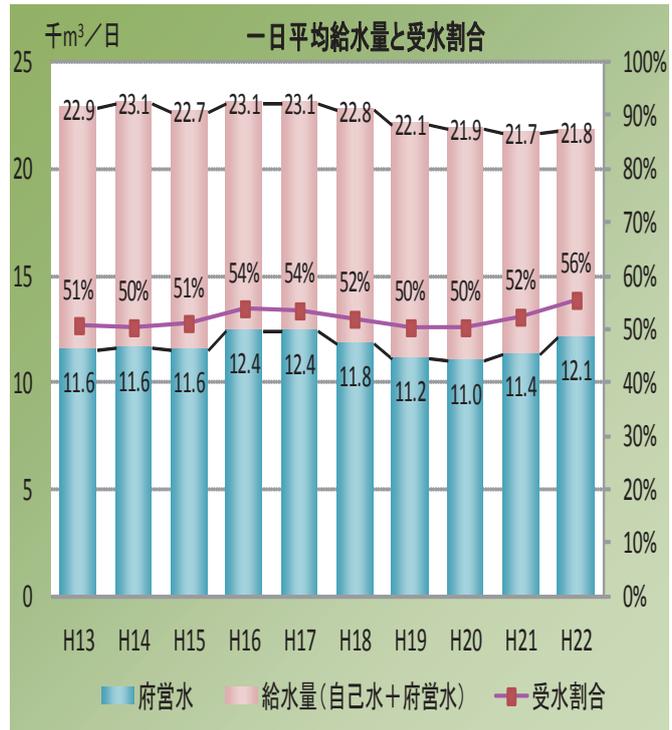
※1 平成22年度末の能力

※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力

給水区域の状況		①ブレンド区域	②府営水区域	③自己水区域
受水の考え方		現行の考え方		今後の考え方
平均	①ブレンド区域	自己水を優先的に活用し給水 受水割合を約50%として府営水を受水		同左 → 受水割合を50%として府営水を受水
最大	①ブレンド区域	需要に対して自己水・府営水で対応		同左 → 過去5カ年の一日平均受水量と1日最大受水量の割合から推計

(単位：m³/日)

	配水能力 ①	一日平均給水量 (H21実績)		施設 利用率 ②/①
		②	(割合)	
全 体	32,860	21,699		66%
自己水	12,960	10,324	(48%)	80%
府営水	19,900	11,375	(52%)	57%



資料編
第2章関連資料

- ※ 府営水：府営水道における測定水量
- ※ 自己水＝全体－府営水

特 記 事 項
市の水道ビジョンを平成24、25年度で検討する予定
リスク分散の観点から受水割合50%が理想と考えているが、効率的な経営を目指し、自己水を減らし取水・浄水施設の縮小も検討中
井戸(3~5号井)が建設後30年経過しており揚水量が減少しつつあり、今後、更新が必要

久 御 山 町

(単位：m³/日)

浄水場						水源						配水能力 ※2
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要			
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1	一日平均汲上量 (H22実績)	状況	
佐古浄水場	S43	5,000	薬品沈澱 急速ろ過 消毒	out	実施中 (H24迄)	1号取水井	深井戸	H2	360	0	量的・水質的にも安定	5,000
						2号取水井	深井戸	S54	2,400	1,162	量的・水質的にも安定	
						3号取水井	深井戸	S50	2,400	1,304	量的・水質的にも安定	
計		5,000				計			5,160	2,466		5,000
合計		5,000				合計			5,160	2,466		5,000

※1 平成22年度末の能力

※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力

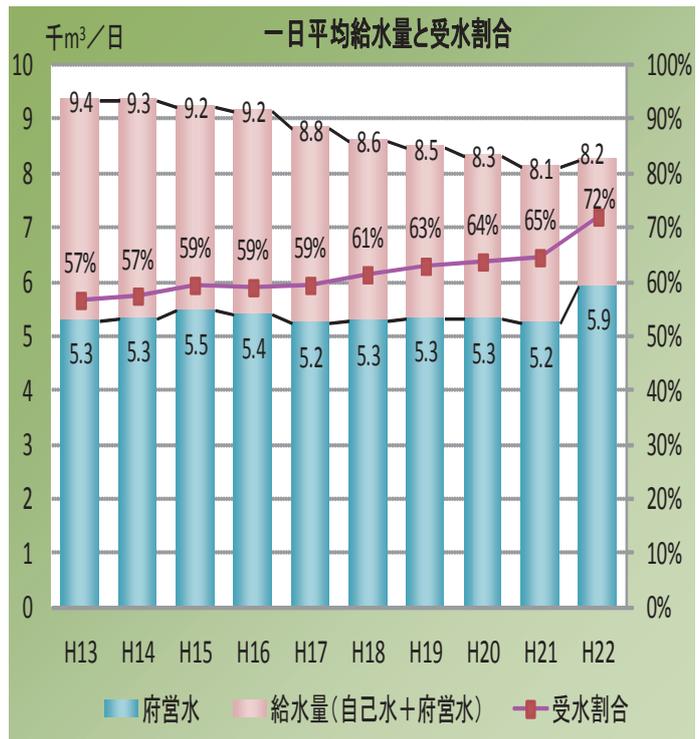
給水区域の状況		①ブレンド区域	②府営水区域	③自己水区域
受水の考え方		現行の考え方		今後の考え方
平均	①ブレンド区域	年間受水量を1,930千m ³ として府営水を受水		同左 → 府営水の受水量を5,285m ³ /日(年間1,930千m ³)として推計
最大	①ブレンド区域	需要変動を府営水・自己水で対応		同左 → 全体のピーク日と自己水や府営水のピーク日が異なるため、直近実績から府営水の最大値を採用しつつ、水需要の減少分も加味して推計

(単位：m³/日)

	配水能力 ①	一日平均給水量 (H21実績)		施設 利用率 ②/①
		②	(割合)	
全 体	16,200	8,122		50%
自己水	5,000	2,883	(35%)	58%
府営水	11,200	5,239	(65%)	47%

※ 府営水：府営水道における測定水量

※ 自己水＝全体－府営水



資料編
第2章関連資料

特 記 事 項

受水量を一定と考えており、水需要の減少により自己水が減少することとなるが、災害時等の非常時の給水確保のため、水質悪化等からの安全安心を図るため、自己水能力を維持していきたい

京 田 辺 市

(単位：m³/日)

浄水場					水源					配水能力 ※2		
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要			
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1		一日平均汲上量 (H22実績)	状況
薪浄水場	S63	16,623	急速ろ過消毒	H23 診断中	未	浜新田取水井	浅井戸	S60	5,300	4,586	浚渫により当面安定取水可	13,770
						藪ノ本取水井	浅井戸	H3	4,560	4,220	浚渫により当面安定取水可	
						田辺第1取水井	伏流水	S32			取水量低下のため休止	
						田辺第2取水井	伏流水	S40	480	506	取水量低下のため改修方法検討中	
						薪第1取水井	深井戸	H19	1,680	1,390	当面安定取水可	
						薪第2取水井	深井戸	H21	2,200	1,433	当面安定取水可	
計		16,623				計		14,220	12,135		13,770	
大住浄水場	S37	4,319	急速ろ過消毒	未	未	大住第1取水井	深井戸	S60	550	547	取水量低下のため年々減少傾向	2,600
						大住第2取水井	深井戸	H14	1,700	1,557	当面安定取水可	
						大住第3取水井	深井戸	H7	800	769	取水量低下のため年々減少傾向	
計		4,319				計		3,050	2,873		2,600	
普賢寺浄水場	S47	558	消毒	未	未	普賢寺取水井	深井戸	S46	280	185	取水量低下後安定	280
計		558				計		280	185		280	
合計		21,500				合計		17,550	15,193		16,650	

※1 平成22年度末の能力

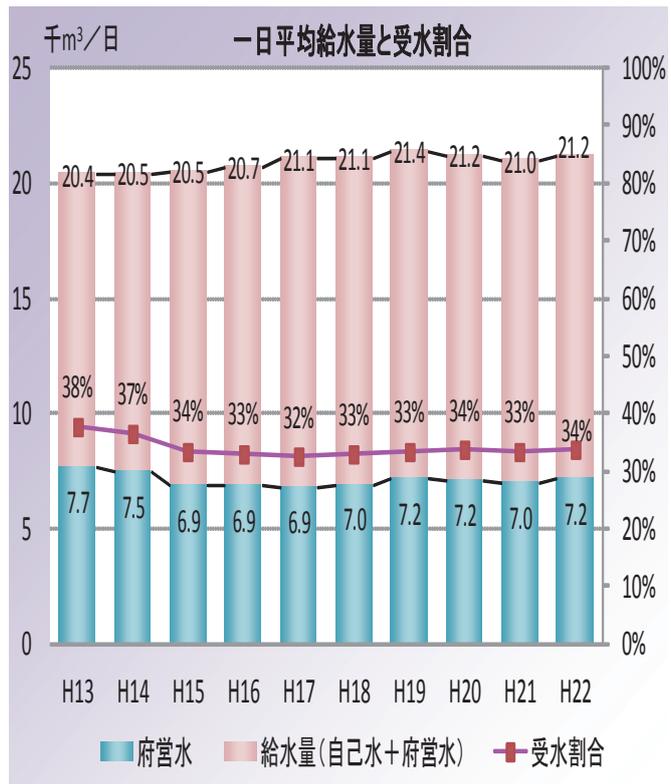
※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力

給水区域の状況		①ブレンド区域	②府営水区域	③自己水区域
受水の考え方		現行の考え方		今後の考え方
平均	①ブレンド区域	安価な自己水を極力活用し給水		同左 → 給水区域別の割合・受水割合 (H22) から推計
	②府営水区域	需要に応じて府営水を給水		同左 → 給水区域別の割合 (H22) から推計
最大	①ブレンド区域	需要変動を安価な自己水により吸収し、不足分を府営水で対応		同左 → 給水区域別の割合・受水割合 (H22) から推計
	②府営水区域	需要変動に応じて府営水を給水		同左 → 給水区域別の割合 (H22) から推計

資料編
第2章 関連資料

(単位：m³/日)

	配水能力 ①	一日平均給水量 (H21実績)		施設 利用率 ②/①
		②	(割合)	
全 体	29,150	20,987		72%
自己水	16,650	13,972	(67%)	84%
府営水	12,500	7,015	(33%)	56%



※ 府営水：府営水道における測定水量
 ※ 自己水=全体-府営水

資料編
第2章 関連資料

特 記 事 項	
大住浄水場の老朽化が進んでいるため、①単純更新、②薪浄水場の水源（井戸掘替）として活用、③府営水代替水源、又は①～③の併用のいずれかで検討中 大住浄水場の統廃合を行い、その代替水源として府営水道からの受水の切り替えを行うことが採算ベースにのるか検討を行う	
薪浄水場の耐震化を優先的に実施 → 平成24年度：実施設計	平成25年度以降：工事
広域的水運用が実施されており、市民及び府民負担の軽減を図る観点から、府と市の双方が総コストを抑える視点で考える必要があり、府営水と自己水を合わせた供給能力を適正に保ち、二重投資をしないことが肝要 各種方策についてコスト、安全安心面、既認可とのからみ等から比較検討した上で、自己水能力のダウンサイジングもありうる	

木津川市

(単位：m³/日)

浄水場					水源					配水能力 ※2	
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要		
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1		一日平均汲上量 (H22実績)
宮ノ裏浄水場	H25	5,300	薬品沈澱 急速ろ過 消毒	-	更新中 (H24迄)	第1取水井	浅井戸	S11	1,600		
						第2取水井	浅井戸	S41	2,000		
						第3取水井	浅井戸	S47	1,800		
						第4取水井	深井戸	S61			水質が懸念されるため休止
計		5,300			計			5,400	0	5,300	
合計		5,300			合計			5,400	0	5,300	

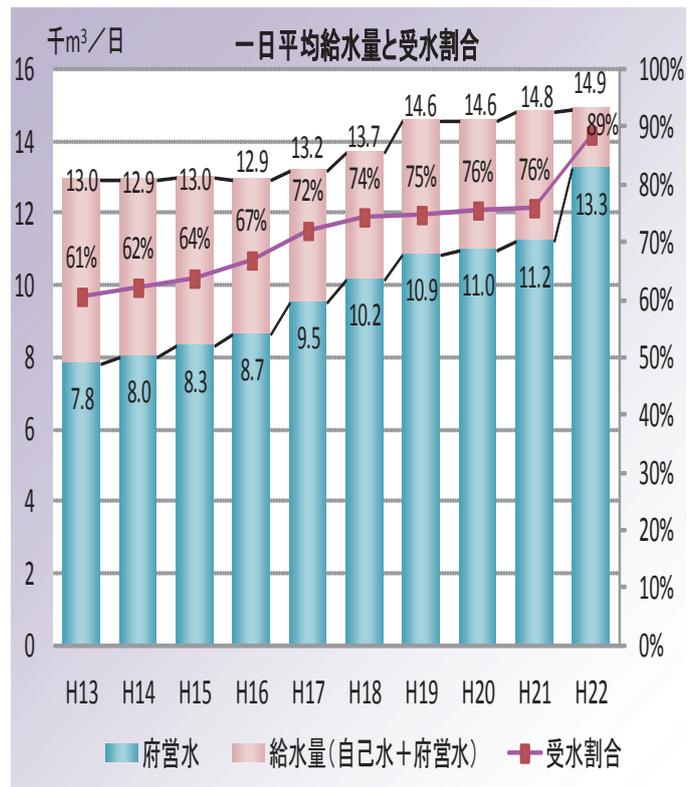
※1 平成22年度末の能力

※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力

給水区域の状況		①ブレンド区域	②府営水区域	③自己水区域
受水の考え方		現行の考え方		今後の考え方
平均	①ブレンド区域	平成15年度頃から旧市街地に対して府営水をブレンドして給水 学研開発（木津南）と旧市街地の需要に応じて府営水を極力活用し、残りを自己水で対応		同左 → 過去10カ年の負荷率の最小値をもとに一日最大受水量から一日平均受水量を推計
	②府営水区域	学研開発（木津川台・相楽）の需要に応じて府営水を給水		
最大	①ブレンド区域	需要変動を府営水・自己水で対応		同左 → 新たな学研開発（木津中央）により水需要が増加するため、府営水で対応 自己水能力のみでは対応しきれず、水需要の増加に対して府営水を増量して対応 ただし、現行基本水量では不足
	②府営水区域	需要変動を府営水で対応		

(単位：m³/日)

	配水能力 ①	一日平均給水量 (H21実績)		施設 利用率 ②/①
		②	(割合)	
全 体	17,300	14,808		86%
自己水	5,300	3,583	(24%)	68%
府営水	12,000	11,225	(76%)	94%



※ 府営水：府営水道における測定水量

※ 自己水＝全体－府営水

資料編
第2章関連資料

特 記 事 項

ブレンド方式に施設整備を行い、平成22年度に宮ノ裏第2浄水場を廃止し、自己水をダウンサイジング
(取水能力7,700m³/日→5,300m³/日)

今後、学研開発(木津中央)により水需要が増加する見込みであり、府営水で対応していくが、基本水量が不足する状況

精 華 町

(単位：m³/日)

浄水場						水源						配水能力 ※2
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要			
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1	一日平均汲上量(H22実績)	状況	
北稲浄水場	S34	5,400	消毒	未	未	北稲取水ポンプ1-1	深井戸	S33	1,440	1,101	量的・水質的にも安定	5,400
						北稲取水ポンプ1-2	深井戸	S62	3,264	1,848	量的・水質的にも安定	
						北稲取水ポンプ2号	深井戸	H4	3,312	1,867	量的・水質的にも安定	
計		5,400				計			8,016	4,816		5,400
柘榴浄水場	H9	500	急速ろ過消毒	未	未	柘榴取水ポンプ1	深井戸	S47	1,440	741	量的・水質的にも安定	500
						柘榴取水ポンプ1-1	深井戸	H9	1,440	912	量的・水質的にも安定	
計		500				計			2,880	1,653		500
合計		5,900				合計			10,896	6,469		5,900

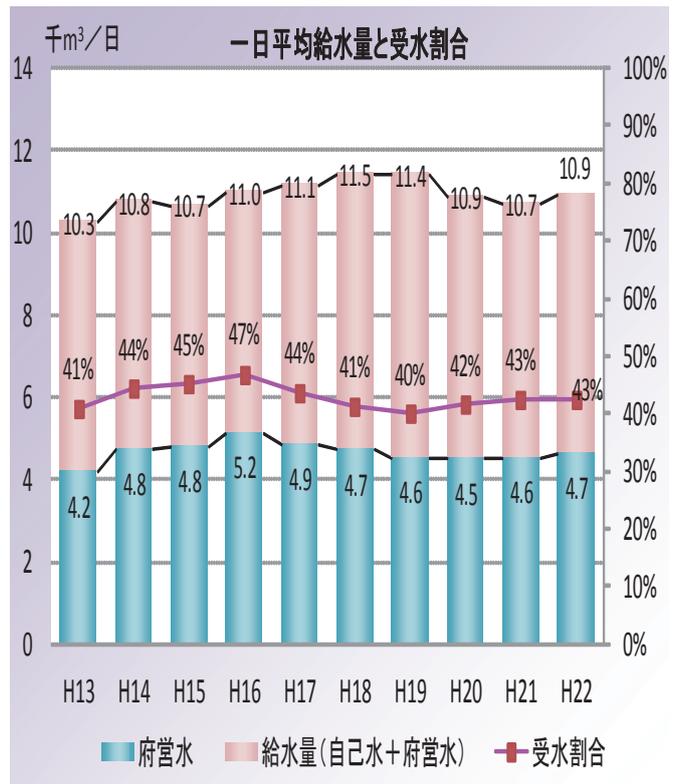
※1 平成22年度末の能力

※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力

給水区域の状況		①ブレンド区域	②府営水区域	③自己水区域
受水の考え方		現行の考え方		今後の考え方
平均	②府営水区域	学研開発（光台・精華台）の需要に応じて府営水を給水		同左 →府営水区域の過去5カ年の平均給水量から推計 但し、人口増加が見込まれるため、伸び率2%を見込む
	③自己水区域	北稲浄水場は府営水区域と自己水区域に高低差があり現段階ではブレンドすることが困難 →既存地域の需要に応じて自己水を給水		同左 →自己水区域における過去5カ年の平均給水量から推計 簡易水道の統合を見込む平成26年度以降
最大	②府営水区域	需要変動に応じて府営水を給水		同左 →過去5カ年の平均給水量と最大給水量の割合から推計
	③自己水区域	需要変動に応じて自己水を給水		同左 →過去5カ年の平均給水量と最大給水量の割合から推計 簡易水道の統合を見込む平成26年度以降

(単位：m³/日)

	配水能力 ①	一日平均給水量 (H21実績)		施設 利用率 ②/①
		②	(割合)	
全 体	17,400	10,730		62%
自己水	5,900	6,169	(57%)	105%
府営水	11,500	4,561	(43%)	40%



資料編
第2章関連資料

- ※ 府営水：府営水道における測定水量
- ※ 自己水＝全体－府営水

特 記 事 項
学研開発等に伴い、開発者からの協力金を得て府営水給水区域の施設整備を行っているため、既存地域へ府営水を給水することができない
現施設で府営水と自己水のブレンドが困難
今後、学研開発（下粕京阪・近鉄）等により府営水の受水量を高めていく

向日市

(単位：m³/日)

浄水場					水源					配水能力 ※2		
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要			
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1		一日平均汲上量(H22実績)	状況
物集女西浄水場	S45.2	21,000	薬品沈澱 急速ろ過 消毒	診断予定 (H24)	未	5	深井戸	S59.12	10,970m ³ /日 (平成22年 度に稼働し ている取水 井戸の総量 の日割)	休止(水量不足)	14,000	
						7	深井戸	S63.6		2,160		良好
						9	深井戸	S54.9				休止(水量不足)
						10	深井戸	S57.8		1,440		良好
						11	深井戸	S61.3		1,680		良好
						12	深井戸	S59.8		1,560		良好
						14	深井戸	H3.3		840		良好
						15	深井戸	H6.4		1,560		良好
						16	深井戸	H2.1		1,560		良好
						17	深井戸	H4.3		1,080		良好
						18	深井戸	H5.3				休止(廃止予定)
						19	深井戸	S62.3		1,920		良好
						20	深井戸	H8.4		1,440		良好
						21	深井戸	S54.3				休止(廃止予定)
22	深井戸	H元.3	1,560	良好								
計		21,000			計			16,800	10,970	14,000		
合計		21,000			合計			16,800	10,970	14,000		

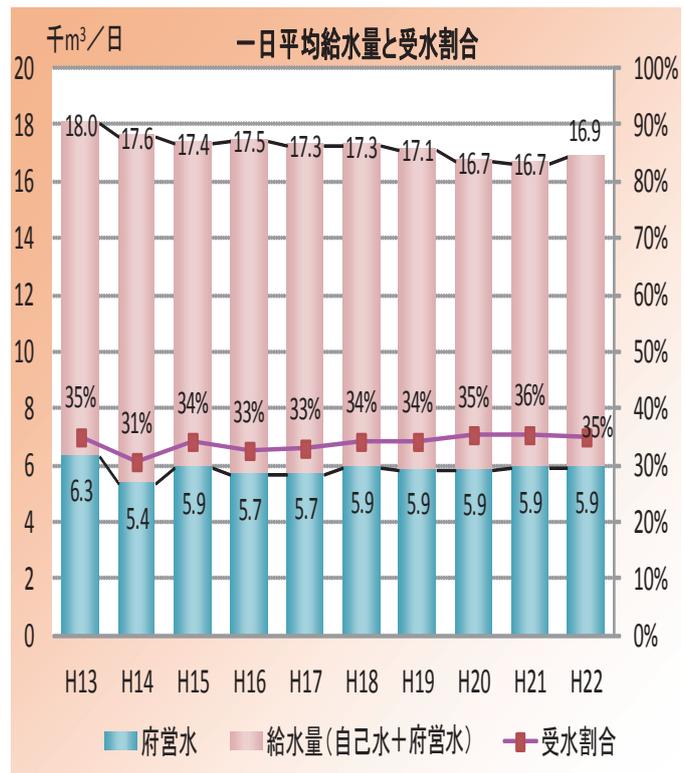
※1 平成22年度末の能力

※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力

給水区域の状況	①ブレンド区域	②府営水区域	③自己水区域
受水の考え方	現行の考え方		今後の考え方
平均	①ブレンド区域	受水割合を約35%として府営水を受水	基本水量に対する府営水の受水量について、施設利用率60%になるよう段階的に増量する方向で努力したい
最大	①ブレンド区域	需要変動を自己水で対応	同左

(単位：m³/日)

	配水能力	一日平均給水量 (H21実績)		施設 利用率
	①	②	(割合)	②/①
全 体	26,700	16,681		62%
自己水	14,000	10,755	(64%)	77%
府営水	12,700	5,926	(36%)	47%



※ 府営水：府営水道における測定水量

※ 自己水＝全体－府営水

資料編
第2章関連資料

特 記 事 項

上植野浄水場は、平成19年度に行った浄水場の一元化により浄水機能を停止し、府営水などの受水池や配水塔としての機能のみ

耐震診断結果に基づき、平成25年度以降に計画的に耐震化を実施予定

基本的には、2元水源を堅持していくが、自己水能力については、将来水道施設の更新に係る費用が増大するため、より経済的、効率的な方策を検討していく
物集女西浄水場の耐震診断結果によっては、浄水施設のダウンサイジングも視野に入れ更新を進める

長岡京市

(単位：m³/日)

浄水場						水源						配水能力 ※2
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要			
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1	一日平均汲上量 H22実績	状況	
東第2浄水場	S57.5	20,000	急速ろ過消毒	out	未	東1号井戸	深井戸	S55.3	13,750 ~ 14,000	13,773	水質悪化のため休止中	13,750 ~ 14,000
						東4-1号井戸	深井戸	S48.11			安定取水	
						東4-2号井戸	深井戸	H6.1			安定取水	
						東5-2号井戸	深井戸	S54.3			安定取水	
						東6号井戸	深井戸	S51.4			水質悪化のため休止中	
						東13-1号井戸	深井戸	H3.8			安定取水	
						東13-2号井戸	深井戸	H4.7			安定取水	
						東14号井戸	深井戸	H7.1			安定取水	
計		20,000				計			13,750 ~ 14,000	13,773	13,750 ~ 14,000	
合計		20,000				合計			13,750 ~ 14,000	13,773	13,750 ~ 14,000	

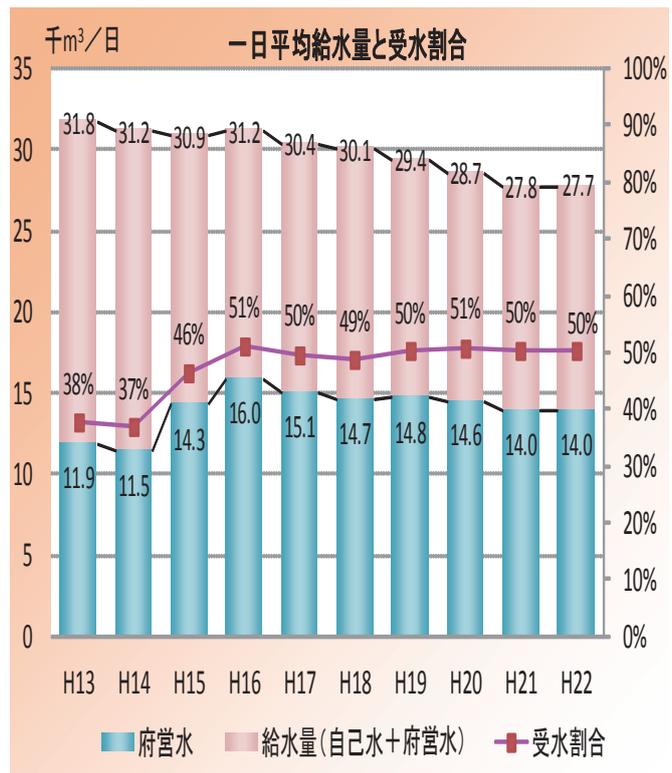
※1 平成22年度末の能力

※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力

給水区域の状況		①ブレンド区域	②府営水区域	③自己水区域
受水の考え方		現行の考え方		今後の考え方
平均	①ブレンド区域	市民からの「出来る限り地下水を使用してほしい」との要望に答えるため、企業5社へは100%府営水を、一般市民向けにはブレンド水を給水 「長岡京市水道事業懇談会」から市民要望も踏まえ「一般市民向けブレンド率は概ね50%が望ましい」との提言を踏まえて自己水施設を整備しており、受水割合を50%以内で府営水を受水		同左 → 懇談会提言で示された一般市民向けブレンド率50%が確保できる自己水施設能力(概ね13,800m ³ /日)を超える水量について、府営水道の受水を予定 水需要は減少傾向であり受水量についても減少すると予測
	②府営水区域			
最大	①ブレンド区域	需要変動の殆どを府営水で対応		同左 → 自己水を最大限活用(14,000m ³ /日)し、残りを府営水で対応
	②府営水区域			

(単位：m³/日)

	配水能力	一日平均給水量 (H21実績)		施設 利用率
	①	②	(割合)	②/①
全 体	39,750 ~ 40,000	27,771		69% ~70%
自己水	13,750 ~ 14,000	13,787	(50%)	98% ~100%
府営水	26,000	13,984	(50%)	54%



資料編
第2章関連資料

- ※ 府営水：府営水道における測定水量
- ※ 自己水=全体-府営水

特 記 事 項

自己水・府営水の二元水源のあり方について、今後とも懇談会提言に基づいた水運用(一般市民向けブレンド率50%)を予定
地域自己水について、危機管理面からも一定の水量確保は必要不可欠

「長岡京市水道ビジョン」で施設整備の方向性を定め、水需要予測に即した施設の統廃合を進めている

- ・浄水場(東浄水場、東第2浄水場)の統合(済み)
- ・給水区域(北・長法寺)の統合事業(実施中)

主要施設は昭和に整備されたものであり、耐震化が必要であるため、老朽施設の更新に併せて耐震化を進めている

大山崎町

(単位：m³/日)

浄水場					水源					配水能力 ※2	
名称	稼働年月	概要		耐震化		井戸名	種別	稼働年月	概要		
		施設能力	処理方式	診断結果	耐震対策				実能力※1		一日平均汲上量(H22実績)
宝本浄水場	S44.10	3,080	急速ろ過消毒	out	未	2号	深井戸	H4.11	1,560	416	量的にも水質的にも安定
						5号	深井戸	S44.10	1,560	435	量的にも水質的にも安定
計		3,080				計			3,120		3,080
夏目浄水場	S49.2	5,000	急速ろ過消毒	out	未	8号	深井戸	S49.2	1,440	492	量的にも水質的にも安定
						10号	深井戸	H7.7	1,440	482	量的にも水質的にも安定
						11号	深井戸	S55.6	1,680	580	量的にも水質的にも安定
						14号	深井戸	H13.4	1,680	580	量的にも水質的にも安定
計		5,000			計			6,240	2,134		5,000
合計		8,080			合計			9,360	2,134		8,080

※1 平成22年度末の能力

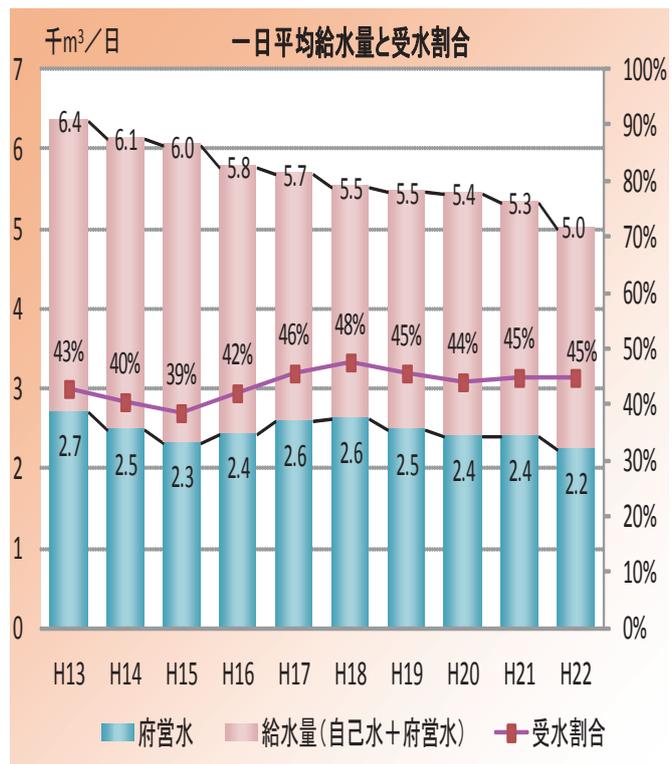
※2 水源の実能力と浄水場の施設能力から実際に給水できる能力

給水区域の状況	①ブレンド区域	②府営水区域	③自己水区域
受水の考え方	現行の考え方		今後の考え方
平均	①ブレンド区域	府営水の導入経緯や町民の地下水を利用したいとの強い要望の中で、受水割合を約50%として府営水を受水	地下水と府営水のあり方については、現在、「町水道事業懇談会」で安全安心で効率的な施設のあり方について議論し、その答申を踏まえて施設整備計画を策定する予定
最大	①ブレンド区域	需要変動を府営水と自己水で対応	同左

資料編 第2章 関連資料

(単位：m³/日)

	配水能力	一日平均給水量 (H21実績)		施設 利用率
	①	②	(割合)	②/①
全 体	15,380	5,344		35%
自己水	8,080	2,941	(55%)	36%
府営水	7,300	2,403	(45%)	33%



資料編
第2章関連資料

- ※ 府営水：府営水道における測定水量
- ※ 自己水=全体-府営水

特 記 事 項
水需要が伸び悩む中で、従来3箇所の浄水場のうち1箇所（葛原浄水場）を廃止しポンプ場として活用
自己水能力については、「大山崎町水道事業懇談会」で、安全安心で効率的な施設のあり方について検討しており、その答申を踏まえて施設整備計画を策定する予定
主要施設の耐震化については、「大山崎町水道事業懇談会」での議論を踏まえて、施設の更新・耐震化の計画を策定する予定